

『家族関係学』誌 査読体制

『家族関係学』誌においては、投稿原稿に関する評価を客観的に行い、『家族関係学』誌の研究水準を維持、向上させるために査読制度を設けている。

査読の体制および手順を以下に記す。

1. 査読体制

『家族関係学』誌の投稿原稿として受理された研究論文、研究ノート、資料は、2名の査読委員（一般社団法人日本家政学会家族関係学部会員）により査読を受ける。査読過程において、原稿の種別（研究論文、研究ノート、資料）の変更は認めない。

審査は2次にわたって行う。1次審査の結果をもとに編集委員会が審議し、次の査読段階に進むかどうかを決定する。第1次審査を通過して修正・再提出された原稿に対して第2次査読が行われ、編集委員会はその結果をもとに審議し、掲載の可否を決定する。

2. 査読の手順

1) 匿名性の確保

投稿者および査読者は、お互いに匿名とする。投稿者の匿名性を維持するために編集委員会は論文の一部にマスキングをすることがある。

2) 審査および書き直しの期間

審査期間は原則として第1回目4週間、第2回目3週間、書き直しの期間は原則として4週間とする。

3) 第1次査読

①審査基準

第1次査読の判定と審査基準は、以下の通りである。

総合判定結果	審査基準
A	そのまま掲載可
B	掲載の可能性はある（修正が必要）
C	掲載の可能性はある（大幅な修正が必要）
D	掲載不可

② 審査項目

審査は、以下の諸項目について行われる。

評価項目	評価	
1. 問題意識の斬新さ	ある	ない
2. 先行研究の吟味・検討	適当	不適當
3. 実証方法（理論的概念の操作化、データ収集の方法、尺度構成の手続きなど）	問題なし	問題あり
4. 統計的解析技法と検定法	問題なし	問題あり
5. 表・図の表示方法の適切さ	問題なし	問題あり
6. 新しい事実の発見	ある	ない
7. 研究知見の考察	適当	不適當
8. 文献引用の仕方	適当	不適當
9. 結論に至る論証過程	適当	不適當
10. 邦文による要約	問題なし	問題あり
11. 執筆要領の遵守	している	していない
12. その他	特記事項があれば記載する	

③投稿者に対するコメント

「総合判定」「審査項目」の評価とともに、査読者のコメントを投稿者に伝えるために「コメント用紙」を設ける。

4) 第2次査読

①審査基準

第2次査読の判定は、以下の通りである。判定が掲載可、不可に分かれた場合、編集委員会で協議をし、可否の判断を行う。

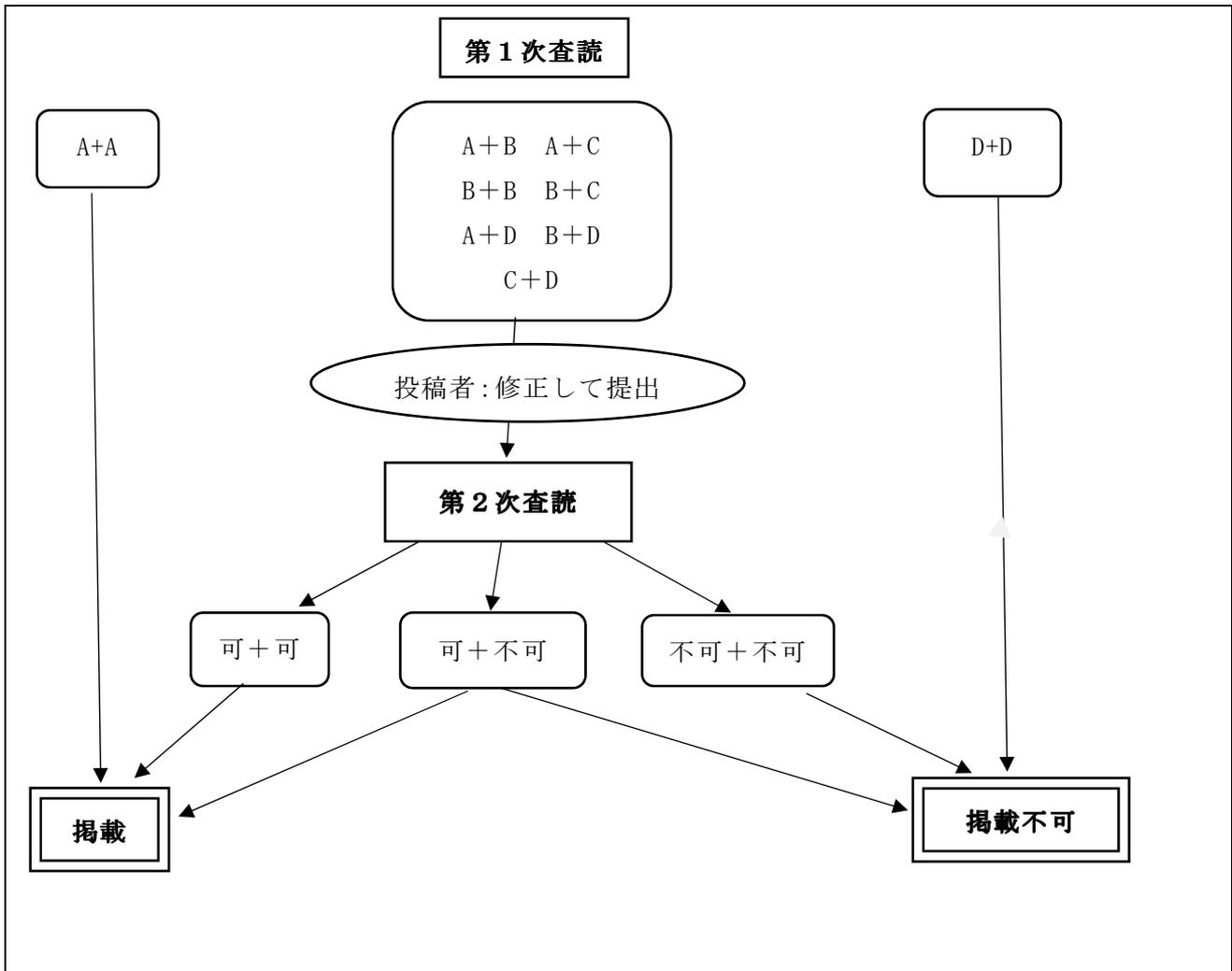
判定結果
1. 掲載可
2. 掲載不可

②査読者コメント

「第1次査読コメント」に対する投稿者の応答に関連して、査読者のコメントを投稿者に伝えるものである。

5) 査読の流れ

以上の査読の流れを図示する。ただしこれはあくまでも原則であり、全ての投稿原稿について査読者の判定をもとに編集委員会で個々に審議し、決定する。



以上